

インド文化研修レポート

1. プログラム全体について

初めて見るインドの地は、バスから流れて見える夜のインドだった。本当にインドに来たのだというふわふわとした実感と、すでに嬉しさと楽しさでいっぱいになっていた。私が一番興味を抱いていた国は本当に道が混雑していたし、野良犬や野豚がたくさんいた。その国の人たちは本当に明るく、本当に綺麗な色のサリーを着ていたし、本当に日本人である私たちをじっと見つめてきた。そして講義や本では感じ取ることのできない、実際のインドを自分の目で見る事ができた。日本に帰国して数日後、街を歩いていて日本には本当に色んなものがある、たくさんの物で溢れていることに改めて気づいた。そのほとんどが無くて問題ないものばかりで少し嫌気がさした。しかしその反面、きちんと整った交通道路や優れた衛生面は、日本が進んでいる国なのだという事を改めて感じさせた。私はこの研修で、自分の目でインドという国の一部を見ることが出来たし、日本という国についても改めて知ることができた。文字面ではわかった気になっていた「比較文化」という言葉をしっかり頭で理解することができた研修であった。

2. ヨーガのクラス

ヨーガのクラスは研修プログラムの中でも楽しみにしていたひとつだったけれど、毎朝早起きして朝食前に行くそれはなかなか大変に感じるものだった。ヨーガの内容は普段あまり身体を動かさない私にとっては挑戦の連続だった。しかし、呼吸法においてもポーズにおいても少しずつ上達し日々やりやすくなっているのが身体で感じ取ることができ、とてもやりごたえのあるものであった。

3. ヒンディー語のクラス

私は一回生の時に第二言語としてヒンディー語を履修していたので少しの単語やセンテンスは知っていたけれど、実際に使おうとすると発音が難しくかなり苦戦した。ボランティアの学生が何度も発音して教えてくれるのだが、私は真似をして同じように発音しているつもりでも彼らには全く違って聞こえるようで何度も何度も発音し練習をした。ボランティアの学生は、授業で習った「元

気ですか?」「あなたの名前は何ですか?」などといった簡単な文を授業中や授業外でも毎日使って話しかけてくれたのでとても練習になったし、楽しく身に付けることができた。また、私はヒンディー語を話せない人がたくさんいるということに驚いた。学生たちは英語で会話したり、ヒンディー語で会話したりと話す相手によって話す言語を器用に変えて会話していて、とてもクールだと思ったし、公用語がないのは不便だなとも思った。

4. 英語のクラス

インド人の話す英語（ヒングリッシュ）を聞き取ることは、普段 TOEIC のリスニングや洋画を見るときくらいでしか英語を聞かない私にとってとても難しく大変だった。英語を聞いて、頭の中でわかる単語を取り出して日本語に変換し、日本語で文を組み立てて、やっと理解する。言いたいことを日本語で考えてからなんとか英語にして話す。それでは良くないことはわかっているのに、そのようにしか聞き取り、話すことができない自分に気づき、自分の英語の出来なさを痛感した。実際にボランティアの学生たちと何気ない会話をするだけでも聞き取れなかったり、単語の意味がわからなかったりと歯がゆい思いにもなったし情けなくも感じた。しかし授業での一分間スピーチや発音ゲーム、単語ゲームなど楽しく学ぶことができたし、絶対に英語を話せるようになろうという意欲が湧いた。

5. インド経済の授業

インド経済において唯物論はもはやタブーではないということ、同じく利益はもはや禁句ではないということを知った。黄金の四角形ハイウェイプロジェクト、都市住宅プロジェクトなども進んでおり、電気、ヘルスケア、衛生教育への投資は数倍にジャンプしている。世界でも「インドは変化の国」と言われ、中国やインドネシア、フィリピンなどの国々と競争し合って経済力を高めているということを知った。

6. Cultural exchange programs

授業が終わると毎日代わるがわる様々な学部へ歓迎していただいた。どこでもお菓子とチャイを頂き、学生たちの華麗な踊りや歌、楽器の演奏などの披露を間近で見ることができ、本物のインド文化を感じ取ることができた。彼らの歌や踊りはとても迫力があり、堂々としていて見ていて本当に楽しかった。大学

の講義でインドはおもてなしの国であると学んだように本当にホスピタリティをいたるところで感じる毎日だった。また、私たちもお返しにと1週間かけて「ソーラン節」と「恋するフォーチュンクッキー」の踊りを練習し、しっかりと披露し皆が楽しんでくれたので良かった。私たちが毎晩汗だくになりながら覚えた踊りを、その場ですぐ覚えてしまうインド人には本当に驚いた。普段からテレビでも音楽でも踊りは欠かせない環境で生活し、踊ることが好きな彼らには簡単なのだろうか。皆と一緒に踊ることができたのは本当に楽しく思い出に残るものとなった。

また私たちがインドにいた時、ガネーシャのお祭りが始まる時期であった。私たちは各家庭に置くガネーシャを作っている工場へ行った。その道中でも笛を鳴らし太鼓を叩きお祭り騒ぎだった。私たちが泊まっていたホテルの下でも同じように騒ぎ、打ち上げ花火や爆竹をしたりして私も混じりたい！と思うほど皆楽しそうで本当に賑やかだった。そしてまた、ガネーシャを祀っている場所にも何軒か行くことができた。朝方にふらりと立ち寄ったガネーシャが祀ってあるその場所には近くに住む人たちや子どもたちがたくさんいて、夜は子どもたちが踊ったり音楽を流したりするようでその準備をしているところだった。ガネーシャはヒンドゥー教の神様なので、そのようなところにいる人や騒いでいる人たちはもちろんヒンドゥー教徒であり、その他の宗教を信仰する人たちは参加しないしそういったところには行かないのだが、お祭り気分で見に行く人たちもいるようだ。それほど、このガネーシャのお祭りはその地を賑わせ、皆を楽しく、幸せにする大切なお祭りなのだと思えることができた。

7. 遠足

遠足では様々な場所を訪れたが、私は **Nashik** がとても印象に残っている。**Panchavati** では、それぞれ色鮮やかなサリーを身にまとった人たちの賑やかな色と、濁った河の色と、沐浴をする大勢の人達の色が眼前に広がり、映像を見ているような、まさにインドというような光景を見た。それは本当に圧倒的で、とても美しく見えた。また数か所の寺院にも行った。裸足で歩き回ったり、参拝するためにぎゅうぎゅうの列に並んだり、牛にぶつかりそうになったりして、様々なインドを体験した。物乞いも、ゴミで溢れた道路も、驚く程浴びせられる視線も、インドにいるのだという実感を持たせてくれ、全てを受けとめることができた。

8. ボランティアについて

ボランティアの皆には本当にたくさん助けてもらい、楽しませてもらった。研修に行く前は、少しでも仲良くなれたら良いな、と思う程度でいたが、その思いを遥かに上回るほどとても仲良くなり、大切な友達となった。彼らは皆とてもフレンドリーで、いつもとても親切でしっかりとしていて、一緒にいるのが本当に楽しかったし、とても頼りになってくれた。授業でも授業以外の時でも、私たちがわかりやすいように、ゆっくり、丁寧に、わかりやすい単語を選んで話をしてくれた。また彼らは簡単な日本語をボランティアの学生同士で教え合ったり、私たちに「日本語では何と言うの？」と聞いて、日本語を覚えて使ってくれた。彼らが日本語を使ってくると本当に嬉しく感じたので、私もできるだけ学んだヒンディー語や、英語で話した。それでも通じないときは日本語を話すことができる学生が教えてくれたし、授業でも丁寧に本当に上手な日本語でわかりやすく説明してくれた。彼らとは、本当にたくさんのかたを話したし、冗談を言い合ったり、ふざけ合ったりして遊んだ。インドで今流行っている音楽や映画のこと、インドでも放送している日本のアニメのこと、お互いについてのことや恋愛の話まで、色んなことを気兼ねなく話した。私がこの研修で得た一番大きなものは、インドの学生たちとの交流だと思う。普段大学で学んでいるような昔からの文化や考えとは違った、「現代」のインドの若い人たちの感覚を知ることができたことは本当に貴重な経験であったと思う。インドの学校で、インドの学生たちに囲まれて生活することは旅行で行ったのでは経験できないし、学生だからこそ経験できたことだと思う。そのような貴重な生活を送れたことは私の人生の中でとても大きな経験となった。その思い出深い二週間を濃密で充実した、とても良いものにしてくれたのはボランティアの学生たちのおかげである。FacebookなどのSNSで繋がっている限り、彼らとはまた会えるような気がしているし、これからも大切な友達であるのは変わらないだろう。別れ際、また必ずインドへ行く約束を交わしたので、その時までにもう少しマシな英語を話せるように、彼らにまた会えるまでの課題として頑張ろうと思う。

9. 今後の文化交流について

私は今回の研修で初めて国外へ行った。行く前は不安と楽しみが半分半分だったけれど、行ってみると楽しさと興味深さでいっぱいになっていた。ずっと行って見たかったインドという国は、たくさんの紀行記を読んで得た予備知識と、想像と、期待を裏切らなかつた。そしてもっともっと知りたい、インド中を訪れてインドの隅々まで見たいと思った。そして、私はどの国へ言ってもこんなに興味が湧いてくるものなのだろうかと思問も感じた。ひとつの国を知るには

その国だけを見るのではなく、他国と比較することでまたその国の新たな一面が見えてくるのだと学んだように、他の国もみてみたいと思った。私はこの研修で、座学では学ぶことのできない、実際に交流してわかることや感じることの大切さをとても感じた。これからも積極的に文化交流していきたいと思う。